2024年06月28日 読売東京 朝刊 青森 13版 23頁

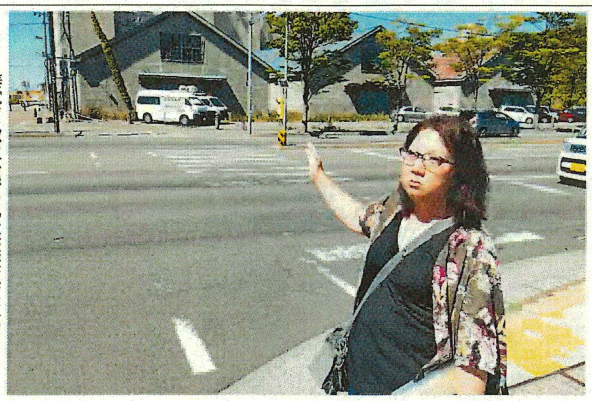
読売新聞 （第3種郵便物認可）

被害者・遺族支援 充実訴え

あす福島で 夫の交通死 体験語る

青森の福井さん

2022年に交通事故で夫を失った青森市の福井友望（ともみ）さん(42)が、福島県で29日に開かれる犯罪被害者の交流の集いで自身の体験を初めて発表する。事故後、被害者支援の情報に接する機会が少なく、つらい思いをしてきた。「自分と同じ思いをする人を増やしたくない」と体験を伝えていくことを決めた。（斎藤秀）



泰寛さんがはねられた交差点に立つ福井さん。泰寛さんは青信号を横断中だった（19日、青森市本町で）

「同じ思いする人 増やさない」

■暮らし一変

あの日、青森署から入った電話が平穏だった暮らしを一変させた。「ご主人が車にはねられた。意識がない」。職場から搬送先の県立中央病院に急いだ。

事故が起きたのは22年3月15日の午後6時15分頃だった。夫の泰寛さんは長男の悠斗さん(19)と会うため、青森市本町の交差点で青信号を渡っていた際、スピード違反で進入してきた高齢男性の乗用車にはねられた。

泰寛さんをじかに見るまで、「助かるかもしれない」と言い聞かせていた。しかし、事故の衝撃で形が変わってしまった頭を目にすると、希望は打ち砕かれた。間もなく泰寛さんは亡くなった。50歳だった。高校生だった悠斗さんは「自分のせいだ」と自身を責め続け、福井さんはストレスから難聴を患い、ぜんそくが再発した。

亡くなった泰寛さん

道端で困っているお年寄りを見つけると、放っておけずに車で目的地まで送ってあげたことがあるなど、泰寛さんは他人を思いやる人だった。

スキーやスノーボードの金型を作る職人として、日本代表選手のオーダーも手がけた。死後に職場を訪れると、生産ラインが止まっていた。泰寛さんにしか扱えない機械があったためだ。「貴重な存在だったんだな」。改めてそう思った。

■制度把握できず

何でもできる泰寛さんに頼っていた部分は多く、様々な手続きに戸惑う日々が続いた。特に裁判の対応はわからないことばかりだった。

23年2月に開かれた刑事裁判の初公判。被害者参加制度を使い、泰寛さんをはねて罪に問われた男性や裁判官に対し、生活が一変した悲しみを訴えた。男性の態度から、反省の思いは感じられなかった。

この制度で弁護士の援助を受けられることは知らず、「弁護士をつけていれば、私たち家族の生活が変わり果てたことをより伝えられたかもしれない」。男性に言い渡されたのは禁錮2年、執行猶予3年の判決。過失で交通事故を起こした人に対する刑の軽さを感じており、今も納得できない。

男性に慰謝料を請求した民事裁判では、自身の代理人弁護士と意思の疎通がうまくいかず、納得できる結果になるとは思えない。今も加害者側から謝罪はない。

泰寛さんを失った後、あおもり被害者支援センターの存在を知ったが、余裕がなく、支援制度の詳細は把握していなかった。早い段階で知ることができていれば、自分だけで多くを抱え込むこともなかったと思う。

29日に福島県猪苗代町で開かれる遺族の交流会は、犯罪被害者団体ネットワーク「ハートバンド」が主催し、東北6県の被害者や遺族が集まる。福井さんはこれまで積極的に体験を伝えようとは思わなかったが、国内で年間3000人近くが交通事故で犠牲になり、今後も自分と同じような苦しみを受ける人が出てくるかもしれないと考えた。

「交通事故の被害者、遺族を支援する制度はもっと充実させるべきだし、その情報を必要とする人に確実に届けないといけない」。当日はそんな思いも言葉にするつもりだ。

福井さんの長女 来寿々（こすず）さん

泣き寝入りしない 芝居励む

夢は舞台役者

福井泰寛さんの長女・来寿々さん(16)は、県立青森中央高校演劇部で芝居に打ち込んでいる。演劇部は強豪として全国的に知られており、進路に迷っていた中学2年の時、後押ししてくれたのが泰寛さんだった。

「もうすぐ夏なのに、なんで雪だよ!!」。25日の放課後、同校の多目的室。7月末に始まる全国高校総合文化祭（総文祭）に向け、大きな声を発して稽古に臨む来寿々さんの姿があった。

演劇の練習に励む来寿々さん（25日、青森市で）＝嘗峻乃介撮影

小学生の時、同校の演劇部を取り上げたドキュメンタリー番組を見て憧れを抱いた。事故の直前、同校への進学を考えていることを話すと、泰寛さんは「いいんじゃない」と言ってくれた。何事も真剣に相談に乗ってくれる父だったからこそ、応援の言葉に一歩を踏み出せた。

事故で一番の相談相手を失い、ご飯が喉を通らなくなった。授業中、急に涙が止まらなくなることもあった。1月1日の誕生日には毎年、盛大にお祝いをしてくれた。事故後、その日が来ると、「（加害者は）普通に生活をしていて、孫にお年玉をやっているのかな」と、やるせない思いにとらわれる。芝居がうまくいかずに落ち込み、「お父さんなら何て励ましてくれるかな」と涙する日もある。

演劇部では周囲に支えられ、大役を任されるようにもなった。夢は舞台役者になること。交通事故を題材にした演目にも挑戦したい。舞台役者になれば、自分の経験、思いを伝える機会も得られると考えている。「悔しさや苦しみを演劇で表現していけるようになりたい。被害者として泣き寝入りはしたくない」。決意のこもったまなざしでそう口にした。

園の特別保護区での植物採取が違法であることを周知しいとしている。7月7日に予定しているイベントは調査は2019年度以来5年ぶり。白神山地と下北半

県猟友会八戸支部のメンバーが14日に駆除のため発砲

等放火容疑で逮捕された八戸市石堂、無職工藤みず紀容疑者

青森 NEWS WEB

犯罪で大切な家族などを失った人たちの交流会 福島県猪苗代町

06月29日　18時54分

犯罪で大切な家族などを失った人たちが自分たちの経験などを共有する交流会が福島県猪苗代町で開かれました。

この交流会は、２５年前に東名高速道路で飲酒運転のトラックに追突され、幼い２人の姉妹を亡くした井上保孝さんと妻の郁美さんなど、全国の犯罪被害者の家族らでつくる団体が開いたものです。

２９日は、東北地方に住む家族などの交流会が福島県猪苗代町で開かれ、およそ３０人が参加しました。

交流会では犯罪で大切な家族などを失った人たちがみずからの経験を発表しました。

このうち２年前に青森市で車にはねられて死亡した福井泰寛さん（当時５０）の妻の友望さんは、当時、誰に相談すればよいか分からないまま裁判が進んだとしたうえで、「主人の死は誰も納得できていません。私たちにとってかけがえのない代わりのない命です」と話していました。

交流会を開いた「ハートバンド」の代表、井上保孝さんは「孤独だったり、吐き出せない思いをしている方もいます。みんなで集まり感情を吐き出して、心が軽くなって帰れるような場を提供したい」と話していました。

青森のニュース

河北新報福島版
2024年6月30日

河北

青森総局
青森市本町1丁目
☎017(776)2654
FAX 017(773)1261

盛岡総局
盛岡市菜園1丁目
☎019(624)2234
FAX 019(653)3625

一関 ☎0191(26)3066 FAX 0191(26)2258
北上 ☎0197(63)2827 FAX 0197(63)2649

酒田 ☎0193(65)1755 FAX 0193(65)1756
大船渡 ☎0192(27)3342 FAX 0192(27)2388

秋田総
秋田市中通
☎01
FAX 01
☎01
FAX 01
横手

孤立超え 語る つながる

犯罪被害者遺族が交流会

福島・猪苗代

東北の犯罪被害者遺族の交流会が9日、福島県猪苗代町のホテルであり、19人が参加した。当事者同士のつながりを育もうと、全国20の被害者団体でつくるネットワーク「ハートバンド」が初めて企画した。

参加者2人が体験談を発表。青森市の福井友望さん(42)は、信号を無視して運転する高齢者のスピード違反の車に夫=当時(50)=がはねられ、亡くなった。加害者に反省は見られず、謝罪もなかったにもかかわらず執行猶予付きの判決で「失望し、司法が信じられなくなった。何一つ納得できない」と涙を流した。

福島県郡山市の渡辺尚子さん(58)は居眠り運転のトラックが起こした追突事故で、息子向然にかわいがっていたおい=当時(18)=を失った。「仕事に身が入らなくなり、心も不調になった。事故を知っていて『いつでも泣きに来ていい』と言ってくれた医者と出会ったことで、少しずつ回復した」と振り返った。

2001年にあった大阪教育大付属池田小(大阪府池田市)の校内児童殺傷事件で長女が犠牲になり、グリーフ(悲嘆)ケアに取り組む本郷由美子さん(57)が講演。「グリーフは一生続くが、人との関わりの中で少しでも苦しみを和らげて生きていくことはできる。誰もがケアできる社会になってほしい」と語った。

自身も12歳の時に交通事故で父を亡くしたあしなが育英会(東京)の西田正弘東北レインボーハウス所長、元東京高検検事で犯罪被害者支援を専門とする内藤秀男弁護士も登壇した。30日は郷土玩具「赤べこ」の絵付け体験などで親睦を深める。

東北の犯罪被害者遺族の交流会で、自身の体験を発表した渡辺さん

遺族同士 笑い合える場に

交流会を企画・井上さん夫妻

「ハートバンド」共同代表の井上保孝さん(74)と郁美さん(55)夫妻=ベトナム在住=は1999年11月、東京都内の東名高速道で乗用車が飲酒運転の大型トラックに追突され、同乗の長女と次女を亡くした。東北で初めて開催した交流会について「つらい体験を語り合うことがグリーフケアにつながる」と語る。

長女麗子さんは当時3歳、次女周子さんは1歳だった。常習的に飲酒運転をしていた加害者への判決は、業務上過失致死傷罪などで懲役4年。「全ての交通事故を過失で裁くなんて理不尽だ」。37万筆超の署名を集めて厳罰化を求め、2001年の危険運転致死傷罪の創設につながった。

同時に自助グループに参加し、他の遺族と体験を共有することで精神的に救われたという。

周囲の無理解や何げない一言も被害者や遺族を傷つける。「苦しみを誰にも話せず、相談できない中で孤独を感じてしまう。喪失による心身へのダメージは大きく、グリーフは自分でケアする必要がある」と郁美さんは言う。

保孝さんも「遺族同士で話すことで澱のようなものが抜け、心も体も軽くなった」と振り返る。

被害者の尊厳と権利の実現を掲げるハートバンドは03年以降、毎年11月に東京で集会を開いてきた。2人は今年4月に共同代表に就任。東北からの参加が少ないことが気になり、1泊2日の交流会を企画した。

一夜の懇親会では、お酒も楽しむ。普段は周囲の目を気にして飲めない遺族が少なくない。「バーゲンの買い物袋を見られたくない人だっている。楽しんではいけないと、自分を押し込めてしまう」と郁美さん。

だからこそ「遺族同士なら安心して笑い合える」と強調する。

東北でも被害者や遺族の輪が広がってほしいと、来年も交流会を計画する。「一人でも友達をつくれば、行き詰まった時や困ったときに連絡を取り合える。今回の参加者が地元で声をかけ、来年はより多くの人が集まればいい」。2人が期待を込める。

参加者の記念撮影で笑顔を見せる保孝さん(前列左)と郁美さん(同右)

（第三種郵便物認可）

交通事故犠牲

夫の理不尽な死 伝えたい

福島で犯罪被害者遺族交流会

全国の犯罪被害者団体でつくるネットワーク「ハートバンド」は29日、東北地方に住む被害者遺族の交流会を福島県猪苗代町で開いた。5県から19人の遺族が集まった。

交通事故で夫を亡くした青森市の福井友望さん(42)は「唯一無二の夫を失った理不尽な体験を伝えたい」と今回初めて人前で思いを語った。

福井さんの夫は2022年、交差点を青信号で横断中に乗用車にはねられた。福井さんは、自動車運転処罰法違反（過失致死）罪に問われた加害者が裁判で「運が悪かった」と話す姿に強く憤り、交通ルールを守らない車や歩行者を見るたびに事故を思い出すという。「何も悪くない夫の死を家族は誰も納得できていない」と訴えた。

ハートバンドは毎年、東京都内で全国大会を開いている。「来場が難しい遺族同士がつながり、安心して話せる場をつくりたい」と、1999年に飲酒運転のトラックに追突され娘2人を失った井上保孝さん(74)、郁美さん(55)夫妻の呼びかけで、初めて東京以外で開催。大阪教育大付属池田小(大阪府池田市)の児童殺傷事件の遺族らも参加した。

トラック追突で娘２人失う

井上さん夫妻 開催呼びかけ

被害者遺族の交流会で経験を語る福井友望さん＝29日午後、福島県猪苗代町

まんぞちゃん

◀田中しょう▶

電話de詐欺 最前線

6月27日現在（暫定値）

県内発生状況	
被害件数	411件
被害額	約14億7636万円

被害状況 上位10市区町村

	市区町村	件数(件)	被害額(円)
1	船橋市	56	154668749
2	松戸市	43	383931544
3	市川市	36	89413522
4	佐倉市	23	51460710

新聞 （第3種郵便物認可）

被害者遺族の心 楽に

全国の犯罪被害者団体のネットワーク「ハートバンド」（東京）が29日、東北地方在住の被害者遺族ら約30人が集まる交流会を猪苗代町のホテルで開いた。ハートバンドが地方で交流会を開くのは初めてで、「遺族同士が思いを共有することで、心が楽になる場をこれからも作っていきたい」としている。（杉原梨央）

自身の体験を話す渡辺さん（29日、猪苗代町で）

東京の交流会 猪苗代でも

「息子のような存在でした」

登壇した郡山市の渡辺尚子さん(58)の声が会場に響いた。渡辺さんは2009年、本宮市の国道で居眠り運転をしていたトラックに追突されておいの敬純さん（当時18歳）を亡くした。渡辺さんは、被害者遺族としての思いを語る場がほとんどなかったと言う。講演後、「何年たっても悲しいものは悲しい。同じ思いを持つ人に話したことで少し気持ちが軽くなった」と明かした。

ハートバンドの井上郁美代表(55)は1999年に飲酒運転による事故で2人の娘を亡くした。事件に対するマイナスの感情や犯人への憎しみはなかなか他人と共有できないが、似た思いを持つほかの遺族にはき出すことで、少し楽になった経験がある。

「東京で開いている集まりに参加するのが難しい地方の被害者遺族は、胸の内を話す機会がなく、孤独を感じがちでは」と気に掛かっていた。そこで今回、地方で遺族が集まる場を作ることにした。

この日は、2022年に交通事故で夫を亡くした福井友望さん(42)も青森市から参加し、経験を発表。「否定せず共感や助言をもらえるこのような場はありがたい」と話した。井上代表は「これからも東北の遺族がつながっていければ」と期待している。

公的支援 広がる

33市町村で見舞金

県内では近年、犯罪被害者やその家族への公的支援が広がっている。

県によると今年4月現在、福島市やいわき市など33市町村で犯罪被害に遭った際に見舞金が支給される。昨年4月から12増えた。犯罪被害者の遺族に60万円、犯罪被害に遭って重傷を負った人に30万円――などを支給する市町村が多い。

県はこれらの見舞金の半額を補助しているが、条例などで仕組みを設けないと見舞金は支給されない。県と県警で、市町村の担当者向けに制度を設けるための説明会を開き、見舞金を支給できる市町村を増やしてきた。県の担当者は「被害者支援は住民の住みやすさや安心感につながる」と意義を話す。

県警も支援制度を整備している。精神的苦痛を受けた被害者やその家族が医療機関などでカウンセリングを受けた際の費用を負担するほか、各署に配属された支援要員が刑事手続きや支援制度について相談に対応している。

音楽に合わせて踊る参加者
（29日、いわき市で）

「ひとりじゃない、理解してくれる人がいる」事件事故の遺族が交流　福島・猪苗代町

7/1(月) 9:48 配信

TUF テレビユー福島

「ひとりじゃない、理解してくれる人がいる」事件事故の遺族が交流　福島・猪苗代町

0:01 / 0:57

テレビユー福島

東北在住の犯罪や事故の被害者の遺族が、29日から2日間、福島県猪苗代町で交流会を開き、支援のあり方などについて意見を交わしました。

【写真を見る】「ひとりじゃない、理解してくれる人がいる」事件事故の遺族が交流　福島・猪苗代町

この交流会は、東北在住の犯罪や事故の被害に遭った遺族同士の情報共有や交流を深めようと、犯罪被害者団体ネットワーク「ハートバンド」が開きました。東京以外の地方でこうした会が開かれるのは初めてです。

会には約20人が参加して、29日に開かれた講演では、15年前に交通事故で福島大学の学生だった甥を亡くした渡邊尚子さんや、2年前に事故で夫を亡くした青森県の福井友望さんが、それぞれの体験を話しました。

また遺族への支援のあり方について意見を交わしました。

ハートバンド　井上郁美さん「自分は独りじゃないんだ、自分のことを理解してくれる人がたくさんいるんだと、そういう感覚をお土産に持ち帰ってくれたらいいなと思います」

ハートバンドでは、こうした交流の場を今後もつくっていきたいとしています。

テレビユー福島

記事に関する報告

毎日新聞福島版2024年7月5日

第3種郵便物認可

東北の犯罪被害者 猪苗代で交流会

胸中明かし心楽に

東北の犯罪被害者が集まって情報共有や悲親を深める地域交流会「語りのタベ」が6月29、30両日に猪苗代町のホテルで初開催された。約30人が参加して大切な家族を失った胸の内を明かし、主催者は「少しでも心が楽になれば」と願った。【錦織祐一】

1999年に東名高速道路で飲酒運転の大型トラックに追突されて2児を失い、危険運転致死傷罪の創設に尽力した井上保孝さん（74、郡美さん55）夫妻が企画した。夫妻が代表を務める犯罪被害者団体ネットワーク「ハートバンド」は毎年東京で全国大会を開いている。参加が難しい地方の被害者の孤立を防ぐため東北で交流会を企画。各地に広げることを目指す。

29日は講演会があり、2001年の大阪教育大付属池田小事件で長女の優希さん（当時7歳）を亡くした本郷由子さん（58）＝東京都台東区＝が登壇。98年に米コロラド州のコロンバイン高で起きた銃乱射事件の遺族から「悲しい時には我慢しなくていい」と激励された。私も学んだことを次の世代にしっかり伝えたい」と強調した。

東北からは郡山市の渡辺尚子さん（58）と青森市の福井友望さん（42）が悲痛な体験を語った。

渡辺さんは09年10月、福島大1年のおい・敬純さん（当時18歳）が信号待ちで居眠り運転のトラックに追突されて亡くなり、「我が子は突然にかわいがっていたので仕事に身が入らなくなり、うつ病になった」。

他の犯罪被害者との交流を通じて、等身大のパパ」に故人の写真や事件・事故の概要、遺品の靴を合わせて展示する「メッセンジャー」の活動に出合った。「ここには泣きに来ていいですからね」と理解のある医師と出会ったことも救いとなり、「少しずつ前向きになれた。社会福祉士の資格を取って活動していきたい」と話した。

福井さんはこの日初めて人前で体験を語った。22年3月、スキーやスノーボードの命知職人だった夫・泰寛さん（当時50歳）が青信号の横断歩道を渡っているスピード違反の車にはねられてしまった。長男と長女は深く傷付き、自身もストレスから突発性難聴となった。刑事裁判には被害者参加制度を利用して加害者に質問したが、謝罪の言葉はなかった。地裁判決は禁固2年、執行猶予3年。検察は控訴しなかった。

「夫は家族の中心であり立派な父親でした。故意でなくても人の命を奪ったことに変わりはないのに、なぜ」と福井さんは涙をぬぐった。

おい・敬純さんを交通事故で亡くした記憶を語る渡辺尚子さん

喪失の悲しみ 孤立させぬ

上「語りのタベ」を企画した井上保孝さん（右）と保孝さんが妻の泰寛さんをぬぐいながら夫・泰寛さんを交通事故で失った体験を語る福井友望さん＝いずれも猪苗代町川桁のホテルリステル猪苗代で

「故郷」でアジサイ開花

長野に株分け 二つの災害越え

須賀川

呼ばれている。

地名が同じ「長沼」つながりで、長野市長沼地区に株分けされた。

避難所から自宅に戻った女性（84）が庭先で、土に根を張る1株を見つけた。

渡しになる」と話す。

長野市の長沼地区の元公民館長、宮沢秀幸さん（76）は「1ヶ所の奇跡」と呼ばれているアジサイ。

度の奇跡が経験した奇跡の、『奇跡のあじさい』とも呼ばれているアジサイ。

咲かせた。生命の力強さを原動力にして歩みたい」と言っている。

天気			
	○のち	□一時・時々	5%以上
	↑正午の風向き		5%未満

	福島	郡山	小名浜	会津若松
気温	35/24℃	32/22℃	29/22℃	33/21℃
降水確率	20%	50%	20%	30%
6				
9				
12				
15				
18				
24時				
あすの予報	34/24℃ 50%	33/24℃ 50%	31/24℃ 50%	32/24℃ 60%

洗濯	熱中症	紫外線
3	3	2
乾きやすい	厳重警戒	やや強い
3	3	4
乾きやすい	厳重警戒	非常に強い
4	2	4
よく乾く	警戒	非常に強い
3	3	4
乾きやすい	厳重警戒	非常に強い

あすのこよみ	
7月6日	旧6月1日

週間予報（福島）	
7日(日)	32/23℃ 50%

指数情報（項目は季節で変わります）

福島民報　2024年6月30日

犯罪被害者遺族が交流

猪苗代 支援のあり方 意見交わす

犯罪被害者の遺族団体でつくる全国ネットワーク「ハートバンド」は29日、猪苗代町のホテルリステル猪苗代で東北地方在住の被害遺族の交流会「語りの会 in 猪苗代」を開いた。遺族が体験を発表して交流を深め、喪失体験の共有などを通じ、悲惨な事故や犯罪遺族の心の傷への対処や被害者支援のあり方を議論した。

ハートバンドは全国の約200の犯罪被害者団体で構成する。1999（平成11）年に福島県郡山市で起こった飲酒運転のトラックに巻き込まれ娘2人を失った井上幸子さん（74）、郁美さん母子が代表を務める。緑の会（東京都内）で全国大会を開いているが、来場が難しい地方の遺族同士がつながる場をつくろうと、地域ごとの交流会を初めて開催した。2001年大阪教育大付属池田小（大阪府池田市）の児童殺傷事件で長女の優希さんを亡くした社会福祉士の本郷由美子さんが事件当時の心境を語った。本郷さんは事件現場に通い、優希さんが致命傷を負いながらも必死に68歩進んだ場所を毎日、同じように歩いていた日々を赤裸々に語った。現在、犯罪被害者の支援に加え、加害者側の支援も行っているという。

郡山市の渡辺尚子さんは、15年前、居眠り運転のトラックに巻き込まれる交通事故で、息子のようにかわいがっていたおいを失った。突然の死を受け入れられず、体調を崩した経緯などを発表した。「事故で友人が死亡し、心に傷があるちに少しずつ回復した」と述べた。

30日は交流アクティビティを開く。参加者が赤べこの絵付け体験などを通じ、交流を深める。

事故でおいを失った心境を語る渡辺さん